第123号
2025/8

PVかながわ ニュースレター

Caution

緊急提言「熱中症に注意！」
～太陽光で気兼ねなくエアコンを使おう！～

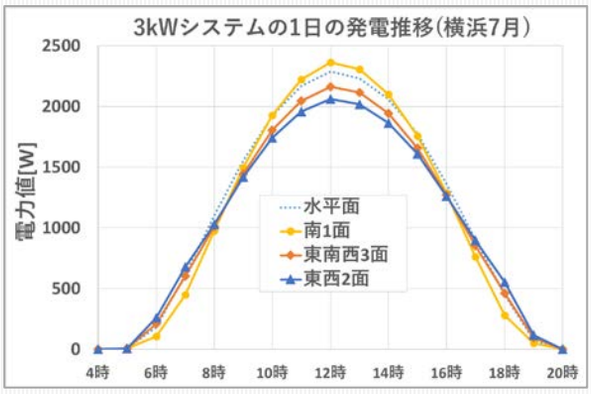
熱中症に関する報道が連日されていますが、6月に続き7月も月平均気温が1898年の統計開始以降、最も高くなり、東北日本海側と北陸地方では降水量が記録的に少なくなりました。気象庁は、今後の見通しについて「向こう1か月も北日本から西日本にかけて平年より気温が高く、厳しい暑さになる見込みです。熱中症の危険性が高い状態が続くので、気温の予報や熱中症警戒アラート等に注意して、適切な熱中症予防行動を取っていただくようお願いします。少雨となっている地域では、8月前半は曇りや雨の日が多くなり、平年並または平年を上回る降水が予想されますが、これまでの少雨の状態を解消するほどの降水量には至らない可能性があり、後半は再び高気圧に覆われて晴れる日が多くなる見込みですので、水の管理に注意してください。」と発表しています。
https://www.jma.go.jp/jma/press/2508/01a/julytemp_20250801.html

これまでの常識が通用しないほど、残念ながら気候変動は進んでしまったと思わざるを得ません。熱中症回避のために、夏はエアコンを長時間使用する生活様式に変える必要がありそうです。ダイキン工業によると、エアコンは外気温と設定温度の差が大きい運転開始直後の電力消費が多いので、9:00～18:00は30分間であればエアコンを切らず、運転を続けた方が消費電力が少ないと検証しています。https://www.daikin.co.jp/air/life/issue/mission05

とは言え、昨今の電気代の値上がりの中で、昼間エアコンをつけっぱなしにすることに抵抗を持ち方もおられるかもしれません。

猛暑日の天気は雲の少ない晴天で、日射の強い日が多く、記録的な暑さだった6月、7月の発電量はかなり多かったと思います。下図は傾斜角30度で1～3面での1日の発電推移を示しています。太陽高度の高い夏場は、12時前後は設置条件により発電力は異なりますが、朝夕の傾向はあまり変わりません。前述の検証を行ったエアコンは14畳タイプの定格電力は約1000Wなので、3kW以上の太陽光システムであれば、朝8時から夕方5時近くまでのエアコン電力を賄えます。近年の太陽光システム容量は、5kWが平均と言われていますので、さらに多くの発電が期待できます。太陽の恵の電気は、もちろんCO2も発生しませんので、積極的にエアコンを使い猛暑を乗り越えましょう。

尚、これは太陽光発電システムが適切に稼働していることが前提になりますので、毎月の発電力を記録しPV健康診断で確認することは、これからも強くお勧めします。（古峰記）



世話人から

連絡事項

継続的に毎月1日～末日まで発電量[kWh]を記録されている方は、発電開始年月日とシステム容量[kW]と共にデータをいただけたら検証レポートを作成しお送りいたします。

これまでの発電量を記録されていない場合でも累積発電量[kWh]や晴天12時頃のピーク発電値[kW]で簡易的に検証する手法もありますので、ご興味のある方はご連絡ください。

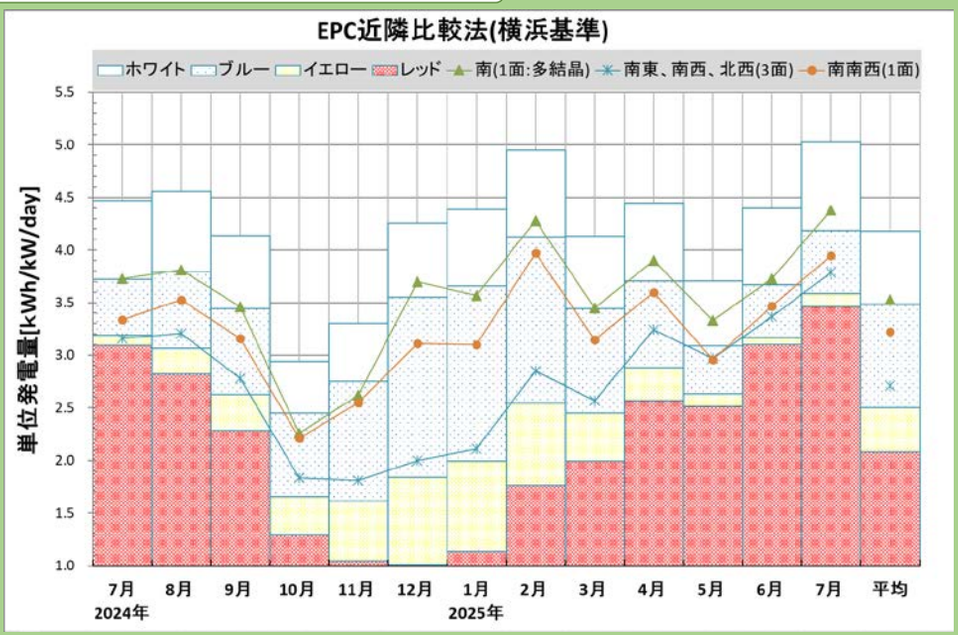
8月以降の予定

「ソーラークッカーを作ろう」
日時：8月1日(金)10:00-12:00
会場：星が丘公民館

「地球温暖化〇×クイズとソーラーランタン工作」
日時：8月8日(金)10:00-12:00
会場：星が丘公民館

「出前発電所Zero!」第40回ワークショップ
日時：8月31日(日) 13:20～
会場：かるがも(星川駅)3F
（参加者募集中！）

今月の単位発電量！



横浜の7月の日照時間は、平年比158%の270.7時間と発電には大きく寄与した一方で、降水量は54.5mmと平年の188.8mmを大きく下回りました。8月4日時点の神奈川県内のダムの貯水率は平年並みのようですが、節水を心掛けたいところです。気象庁によると「偏西風が平年より顕著に北に偏って流れ続け、北・東・西日本は暖かい空気に覆われた。また、太平洋高気圧が本州付近に張り出し、梅雨前線の活動が弱かったため、北・東・西日本では晴れて気温が高い日が多かった。一方、太平洋高気圧の軸の南側に位置した沖縄・奄美では、台風や湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。これらのことから、北・東・西日本では記録的な高温で顕著な少雨・多照となった所が多く、対照的に沖縄・奄美では顕著な多雨・寡照となった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。
平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。
※近年の太陽光システムは均質化や効率改善が進み、2000年初頭の物に比べ、実発電量が10%以上多くなることもあるので、補足としてホワイトを設けました。